



写真資料=骨寺村荘園休憩所で食事を楽しむ観光客

観光戦略 アクションプラン重点に推進

市は、観光の現況を踏まえ、市全域を見渡しながらか、特色を生かした観光振興、観光まちづくりを強力かつ重点的に推進するため、主に取り組むべき事項について、「一関の観光振興のための重点計画(アクションプラン)」を策定しました。

市内の観光客の入り込み数は、平成17年以降伸び悩んでいます。また、昨年6月14日に発生した岩手・宮城内陸地震の影響など

により、観光事業はさらに厳しさを増しています。こうした状況を踏まえて市では、市民との協働のまちづくりの取り組みの一つとして、観光客の受け入れ体制の整備などを行うことにより、観光客の入り込みを増やし、交流人口の増加による地域経済の活性化や雇用機会の拡大を図ることを目指します。

重点計画の概要は次のとおり。

- ◎実施期間
- ① 真湯山荘の温泉センターは、復旧したうえで林業研修センター、休憩施設および緑地等管理中央センターを取り壊し、これらが担っていた機能のうち、受付・休憩機能を持った施設(下図参照)を新たに整備します。
 - ② 休憩施設完成後の運営管理は、指定管理者制度を想定します。
 - ③ 真湯地区のコテージ、ジャブジャブ広場、テニスコート、遊歩道ならびに祭時地区のセミナーハウス、多目的グラウンド、キャンプ場、スノーランド・リフトは
 - ④ 既存の観光資源の活用
 - ⑤ 観光資源の掘り起こし、食材の活用 情報発信など
 - ⑥ 人材の育成
 - ⑦ 骨寺村荘園遺跡の活用
 - ⑧ 真湯・祭時地区の振興

◎問い合わせ先
本庁観光戦略推進本部事務局
☎08415

⑥一ノ関駅と各地域の連携
なお、今後、計画の成果を見極めながら、必要に応じて見直しを行い、実効性を高めていくこととしています。また、計画の全文は、市ホームページに掲載しています。

真湯・祭時地区活性化構想、真湯山荘整備基本計画を策定

豊かな自然に恵まれた真湯・祭時地区。市はこれらを生かした施設の再整備などを行い、地域の活性化を図るための「真湯・祭時地区活性化基本構想」と真湯山荘の今後のあり方を定める「真湯山荘整備基本計画」を策定しました。

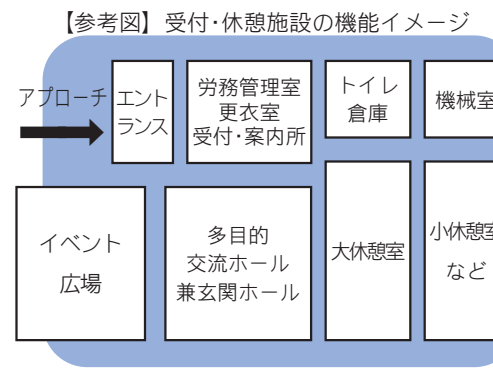
その主な内容は次のとおり。

◎構想計画の概要

真湯山荘施設の老朽化や利便性の悪さ(長い動線、段差など)、国道342号沿いの連携不足な

◎問い合わせ先
本庁観光戦略推進本部事務局
☎08415

◎問い合わせ先
本庁観光戦略推進本部事務局
☎08415



右 げいび藤美連のみなさんは、華やかに『南中ソーラン』をお披露目
下 勇ましく「対決」の口上を読み上げる千葉広胤公役の的場浩司さん



命運かけた軍議を再現

歴史
絵巻

第9回唐梅館絵巻は10月18日、東山町の唐梅館総合公園などで会場に行なわれ、華やかな歴史絵巻が繰り広げられました。

ことしの総大将・千葉広胤公役は、俳優的的場浩司さん。先代東関親方渡辺大五郎さん(元関脇高見山)も友情出演し、総勢33人の武将たちが長坂商店街から唐梅館総合公園までを練り歩きました。

軍議は、千葉一族が天正18(1590)年、豊臣秀吉から小田原

参陣の要請を受け、秀吉の命に従うか否かを決した場面を再現的的場浩司さんが勇ましく「対決」の口上を読み上げると、会場の熱気は最高潮に達しました。

また、げいび藤美連など3団体によるよさこい演舞、ゲイビマンショー、総祝い千人踊り、ふるさと磐井ワイワイクイズなどが祭りを盛り上げ、県内外から訪れた約1万1千人の観衆を魅了しました。

錦秋に包まれたいで湯

一関
温泉郷



左 好天の下、紅葉を楽しむハイカー
下 美しく彩られた山々に囲まれた須川高原温泉



10月中旬、温泉付近の紅葉が見ごろを迎えたとの知らせを聞き、栗駒山を訪れました。

真湯から西側の国道342号線は通行止めのため、秋田を回る片道3時間弱のドライブとなりましたが、標高が上がるにつれて美しさを増す眺めに、運転の疲れも癒されます。

澄み切った青空の下に広がる赤や黄色に染め上げられた山々。

時折、さわやかな秋の風が吹く中、ハイカーや家族連れ、観光客らが、思い思いに美しい秋の景色を楽しんでいました。

岩手・宮城内陸地震で大きな被害を受けたため、本年5月から急ピッチで進められていた須川高原温泉大浴場の建て替え工事も終了し、オープンを待ちわびたたくさんのお客さんにぎわっていました。